



AFICS-JAPAN

Newsletter

Mission Statement

国連システム元国際公務員日本協会
(AFICS-JAPAN) は、

- 国連システムの活動に協力します
- 会員のために必要な情報収集を行い、最新情報を提供します
- 会員相互の意見交換や情報交換のための交流会を開催します
- 国際機関で働く人材育成を支援します

No.5-2016 2016 年 1 月 31 日発行

謹賀新年 2016

年頭のご挨拶

AFICS-Japan 会長 伊勢桃代

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員の皆様にとりご多幸の 2016 年でありますよう、衷心からお祈り申し上げます。

AFICS-Japan はその設立から早くも 4 年目を迎えることとなりました。この間、メンバーの皆様の多岐にわたる応援と活動へのご参加を頂きましたことに篤く御礼申し上げます。皆様のお蔭で組織としての成長と幾つかのプログラムの発展をみる事が出来たと思っております。

2015 年には、国連設立 70 周年を迎え、お祝いと同時に国連の過去、現在そして未来へのいろいろな思いにかられた方々もおいでになったことと存じます。そして、本年 2016 年は、日本の国連加盟 60 周年

« 記事一覧 »

- 会長 年頭挨拶
- AFICS-J から外務省への提言
- 第 5 回人材育成勉強会報告
- 第 2 回国連年金セミナー
- FAFICS 役員会報告
- 人材ロスター立ち上げ
- 人材ロスター活動報告
- お知らせ：

第 5 回年次総会のご案内

新役員の立候補受付中

Citibank の銀行名変更

会費納入のお願い

を迎えます。現 AFICS-J の多くのメンバーの方々は国連 60 年の歩みに深く関わった世代と存じます。従って、2016 年の活動は 60 周年と関連したプログラムを行いたく思っております。また、これからは、メンバー同士の懇親を深める活動を進めることが大事と思っております。

第 5 回総会は 2016 年 3 月 25 日（金）に開催いたします。大勢のメンバーのご出席をお願いいたします。当日は特に、これからの AFICS-J への活発な意見交換を進めたく、お忙しいとは存じますが、皆様のご出席をお待ち申し上げます。

2016 年が皆様とご家族にとり、素晴らしい年となりますよう、心からご祈念いたします。

2016 年 1 月吉日

AFICS-J から外務省への提言

＜国連における日本人幹部職員増強に関する提案＞

人材育成勉強会タスクフォース

伊勢桃代会長、山本和副会長・タスクフォース代表、佐藤純子書記が、2015 年 11 月 4 日外務省を訪れ国連企画調整課長松田賢一氏と面会し、総合外交政策局長秋葉剛男氏にあてた「日本人幹部職員増強に関する提案書」を提出した。

AFICS-Japan は、国際社会で活躍できる人材の育成支援を主要な使命として、会員の貴重な国際経験を社会還元するための活動を模索して、昨年から人材育成の勉強会を実施してきた。2015 年 4 月の第 3 回勉強会では、人事院人材局研修推進課長で元国連代表部国際機関人事担当書記官を経験された岸本康雄氏を招き「日本人国際公務員の増強方針について」の講演と質疑応答を行った。第 4 回勉強会（6 月）では、会員の千田享氏が WHO での自身の経験を通して提起した国連における日本人幹部職員の養成強化の必要性和 AFICS-J の役割についての討論を重ねたうえで、日本人幹部候補生育成強化に関する提言を取りまとめるためにタスクフォースの立ち上げを決めた。



タスクフォースは、問題提起をした千田亨氏（元 WHO）をはじめとして、北谷勝秀（元 UNFPA）、久山純弘（元 JIU/UN）、山本和（元 UNICEF）の各氏で構成され、勉強会における議論だけでなく「国連政策研究会」報告書※も反映しながら、AFICS-J 提言の原案を作成し、執行委員会の審議を経て最終案とした。

日本外交の基本方針は国連中心主義を標榜しているにもかかわらず、国連組織での日本のリプレゼンテーションは低く、日本が人材面から十分な貢献を行っているとはいえない。今後は、邦人職員数の増加だけでなく、政策的・行政的に高い能力をもった人材の確保、また国連機関を目指す次世代の人材育成や現職の邦人職員がより高い影響力を発揮できるような後方支援の施策が必要であると考え。

よってこの提案は、国連における日本のプレゼンスを強化することを目的に、予め幹部候補者に対し国連組織の業務運営に必要な専門知識と管理能力の向上を図るような研修訓練を行うことを骨子として、（１）人材の発掘、（２）研修訓練の方法や内容など、国家政策的な取り組みの必要性を提示した。

（外務省への提案書原文は、AFICS-J の Web: www.afics-japan.org に掲載）

この提言を契機に、今後は外務省が主軸となって、① 国連幹部候補育成制度の構築、② 国連を目指す若い世代のための基礎コースの設置、③ 国連に在職する邦人職員の後方支援など、具体的な施策への展開が期待されている。しかしながら、国連政策研究会※のように 1991 年の発足から様々な視点で日本と国連のあり方について考え、関連する提言を行ってきたにもかかわらず顕著な成果が見られていないことを鑑みれば、今後 AFICS-J が果たすべき役割は、多大であると言わなければならない。

※「国連政策研究会」は、外務省職員と元国連職員を含む国連研究者から構成され、1991 年以来国連外交に関わるその時々主要テーマについて議論する場として機能してきたが、数年前に発展的に解散した。本報告書については、その趣旨が日本政府への提言を内容とするものであるため、報告書作成に向けての討論と執筆は国連研究者メンバーが中心となって行った。尚、詳細については、日本国連学会の「国連研究第 12 号」（2011 年 6 月）に掲載されているので参照されたい。

第 5 回人材育成勉強会

«国連に日本人を増やしたい»

～第 5 委員会における YPP などに関する協議の経験より～

人事院人材局次席試験専門官：矢島恵理子氏

第 5 回人材育成勉強会は、2015 年 10 月 15 日国際文化会館で開催された。講師には人事院の矢島恵理子氏を迎え、11 時から 1 時間にわたり、国連人事の政府対応について講演及び質疑応答が行われた。

矢島氏は 2012 年 4 月から 2015 年 5 月まで 3 年間、一等書記官として国連日本政府代表部に勤務した。代表部における職務の一つは、「邦人職員の増強」で、国連邦人職員会と協力し、邦人職員のための人事サポートや各種イベントの企画や実施、国連を目指す学生のためのガイダンスを全米各地で行うなどの業務・活動を行った。

もう一つの職務は、国連総会第 5 委員会に日本政府代表として出席することだった。第 67、68、69 回総会第 5 委員会に出席、主に人事案件の協議に参加した。毎年人的資源管理（HRM）に関する決議案交渉は 12 月のクリスマス前に終了していたが、第 69 回総会では、国連職員の結婚の定義の議論などがあり、クリスマスまでに合意に至ることができず、2015 年 3 月まで持ち越しとなった。

国連職員の同性婚については、これを結婚の定義に含めると認めた潘事務総長通達の撤回を求めたロシア主導の決議案が投票にかけられ、3 月 24 日に結局は否決された。この結果国連の同性婚を結婚の定義に含める方針は維持されることになった。他方、「望ましい職員数の範囲の計算方法」と、「YPP」の案件を含んだ HRM 全体の決議案は合意に至らなかった。



「望ましい職員数の範囲の計算方法」については、3つの要素と割合（国連通常予算分担率 55%；国連加盟国 40%；人口 5%）について、各国の議論が続いた。2年前、総会が事務総長に、望ましい職員数の計算方法の包括的見直し案を第69回総会に提出するよう要求したことに答えて、今年、事務総長は割合を変えずに計算方法をアップデートした案を提出した。これに対し G-77 + 中国は国連通常予算分担率の割合の引き下げを要求、他方過少代表国である日本を含む先進国は事務総長案を支持した。結局第5委員会は合意できずこの件は先送りとなった。

「YPP : Young Professional Programme」は、以前の競争試験（NCRE）に代わる国連事務局職員採用のためのあらたな競争試験制度で、2011年から実施された。最初の2年間は日本人の合格者が1人も出なかったが、2013年度の試験で1人、2014年度の試験で3人の合格者を出した。

当初、合格者が出なかった理由の一つは、ほかの国に比べ受験者数が少なかったことだが、より重要なもう一つの理由は試験の採点方法にあるのではないかと考えられた。YPPの筆記試験は語学的要素が強い General Paper（一般試験）と語学的要素の少ない Specialized Paper（専門試験）で成り立っている。当初採点方法は General Paper の英語でサマリーを書く試験を先に採点することで、受験者の「足切り」を行うものだった。

英語サマリーの採点段階で落とされた受験者は、Specialized Paper を採点してもらうチャンスがなかった。この採点方法は英語が母国語ではない日本人にとっては不利なもので、矢島氏は、第5委員会や国連事務局に対し、語学重視の方法を見直すよう訴え続けた。Specialized Paper を最初に採点し「足切り」をする採点方法に変わった年、日本人初めての合格者が出た。第69回総会では、事務総長が YPP の General Paper を廃止する提案を出してきたが、時間切れで合意が得られなかった。YPP は難しい試験ではあるが、筆記試験の採点は非常に客観的、公平である。YPP に合格し、採用が決まれば、2年後には、Continuing Contract を取ることができるのでチャレンジをする価値はあるのではないかと。

Q & A :

Q: YPP は言語能力の問題か？

A: 合格者はヨーロッパ圏の人が多かった(正確なデータは開示されていないが)。必ずしも英語やフランス語が母国語の国ばかりではないので、文化の違いということもあるのではないかと。日本人は、引っ込み思案で損をする傾向にある。

矢島恵理子氏プロフィール

学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程、英国オックスフォード大学大学院（実験心理学）修了

平 8：人事院任用局（首席試験専門官付）採用、平 13：企画課制度班主査、内閣官房副長官補付（併任）行政改革推進事務局公務員制度等改革推進室、平 14：人事院総務局国際課国際研究官、平 14：長期在外研究員（オックスフォード大学）、平 16：人事院企画法制課企画専門官、平 21：人材局試験専門官（首席試験専門官付）、平 24：外務省国際連合日本政府代表部一等書記官、平 27から現職

Q：国連に本当に入りたい人が受けるのか？ 使命感のある人が受けるのか？

A：使命感あふれ国連に入りたいと思う応募者は多い。そのような人は計画性を持ってステップを踏んで職員になっていく。

Q：国際機関人事センターは採用方法情報を、国連機関別に分類して出しているか？（UNICEF に入りたいと思った者が、募集から採用まで通しで、また JPO などの制度も含めて、チャートのようにみられたら便利ではないか）

A：各国連機関別の募集情報を一覧で見ることができるほか、JPO などの制度の詳しい情報を提示しているが、国連機関別にチャートのようにしたものではない。採用方法は千差万別、国連機関も様々あるので、それぞれの機関別にチャートを作成するのは難しい。（人道分野など、分野別に分けたものなら可能ではとの意見に対し）工夫する余地はあると思う。

ディスカッション：

- 国際機関人事センターの Web を見ると、国連事務局と UNICEF、UNDP などいわゆる国連の基金やプログラムの採用システムが違うことが大まかにわかる。
- インターンシップの経験はその後の国連キャリアに非常に役に立つ。現在文科省、FACID、日本ユニセフ協会などがインターンへの財的支援プログラムを持っているが、より強化する必要があるだろう。
- 国連で働くことは、いわゆる Job Security（雇用の安定性）が問題になることが多い。

ただ事務局の場合は、特に YPP で採用されれば、2 年後に Continuing Contract になるので安定性はある。雇用の安定性が問題になるのは国連の基金やプログラム（UNICEF、UNDP など）だが、国連機関での経験はキャリアの一つのステップと割り切り、国連での経験を国連の外で生かしてキャリアアップするという考え方もできる。特に若い時の国連の経験は、その後のキャリアに生かせるだろう。

（記録：佐藤書記）

第 2 回「国連年金セミナー」 UNU/SC との共催で

2015 年 12 月 22 日、国連大学スタッフ・カウンセラーと共催で第 2 回国連年金セミナーを開催した。今回の講師は、ニューヨークの国連年金基金スタッフで一時帰国中の後藤ギル美晴氏（Ms. Miharu Goto-Gill, Chief, Enterprise Applications Section, Information Management Systems Services）をお願いした。



参加者は、AFICS-J が 13 名、UNU/SC から 12 名、ビデオ・コンファレンスの参加が名古屋、大阪、福岡、神戸の国連機関事務所 4 か所 10 名で、合計 35 名の参加があった。

セミナーは午後 1 時から始まり、伊勢会長の開会挨拶に続いて、後藤氏が UNJSPF の概要と資金状況の説明、IT システムの変更にもなう対応問題の説明と、本論では主に現職スタッフのための年金手続きの詳細なプレゼンテーションを行った。その後、後藤氏が個人面談 4 名にも対応してくれたためセミナーは、途中のコーヒブレイクを含めておよそ 4 時間という長時間に及んだ。

まず現職スタッフのための、国連年金の加入条件と手続きについて、年金受給の条件、年金支給額の決定と受給方法の選択などについて、例を挙げて丁寧な説明があり、さらに退職間近のスタッフに必要な個人情報の準備に関するアドバイスがあった。

続いて年金受給額の調整システム、Two-Track/Local Track System についてそれぞれの特徴と選択の解説に加えて、「円」以外でも年金として実際に受け取ることができる多くの通貨があることも説明された。最後に、UNJSPF の Website には、国連年金基金の Rules and Regulations と CEO's Annual Letter だけでなく、受給者への支払い状況を示す Annual Statement も載っているので確認して、何らかの齟齬があれば年金オフィスに連絡を取ってほしいとのことである。また、年金受給権利者の指名変更や家族構成の変化なども速やかな届けが求められている。

ところで、AFICS-J ではほとんどのメンバーが退職者/受給者であり、最も気がかりなことは遺族年金についてであろう。残された遺族が英語の書類と取り組まなければならない給付手続上の問題だけでなく、遺族の定義と結婚時期、離婚した被扶養者の給付権利など、今回のセミナーでももう少し掘り下げてほしかったところである。今後、このテーマについては AFICS-J による勉強会のような機会を作って、理解を深めていくことが考えられている。（遺族年金の給付手続きについて、早急に対応が必要な方は、AFICS-J の Web : www.afics-japan.org に「遺族年金の受取りに必要な書類」があるので参照されたい。）（UNJSPF の Website は、<http://www.unjspf.org> ）

ジュネーブで FAFICS 役員会 佐藤純子書記が出席

2015 年 12 月 8-10 日ジュネーブで開かれた FAFICS Bureau Meeting に AFICS-J から佐藤純子書記が出席した。【佐藤純子書記が、昨年 7 月の第 44 回 FAFICS Council（元国際公務員協会連合会総会）において Vice-President に選出されたことは、前号で既報の通り】。

（以下は佐藤書記の報告要約）

はじめに Linda Saputelli 会長から 2015 年 7 月以降の主な案件についての説明があり、中でも国連年金基金理事会に FAFICS の代表を送っていることに加えて、退職後医療保険制度（ASHI）との関わりから第 5 委員会にも代表を出席させるべく議長に要請していることを報告した。



続いて役員 12 名が各協会の今年の活動について報告を行った。

佐藤書記は AFICS-J の活動として、国際的に活躍できる人材育成分野にメンバーの関心が高いことから、メンバーのための勉強会の開催、外務省にあて人材育成に関する提案書の提出、社会貢献としての人材ロスターの立ち上げなどを報告した。さらに去年に引き続き今年 12 月に国連年金セミナーを開催することも報告した。他

国の協会では年金や健康保険、長期介護などの分野の活動がほとんどで、AFICS-J の人材育成分野での活動は「非常に新鮮だ」といったコメントがあった。

国連年金基金のサービス対応の遅れに関して、UNJSPF が新しく IT システムを導入したことによって国連事務局のシステムや銀行のシステムとうまく連携できていないことによる手違いがあったが、現在は順調に機能しているとの報告があった。ただ、国連年金オフィス、特にニューヨーク本部の Email によるサービス対応の遅れには改善の兆しがない。

その他、FAFICS の組織運営の改善強化に関して多岐にわたる問題が話し合われた。

社会貢献のための「人材ロスター」の立ち上げ

日本では、長い間地域社会のグローバル化・国際化が叫ばれてきた。加えて近年の外国人労働者や観光客の急激な増加にともなって、多文化の共生、異文化理解、国際交流など、日本人の国際性能力の向上は避けて通ることのできない喫緊の課題となっている。この国際性能力の向上は、重要な社会的課題として小学校をはじめとして中学、高校、大学だけでなく、地方自治体など多くの一般社会人グループなどが積極的に取り組んでいるところである。

一方、AFICS-Japan のメンバーは国連という多文化社会で働いた豊富な経験に加え、各国連機関で多様な国際社会の問題にかかわり、専門も多岐にわたっている。このように貴重な国際経験や専門知識を必要に応じて活用していくことは、メンバーにとっても、社会にとっても有意義なことと考えて、このたび「AFICS-J 人材ロスター」を立ち上げることとなった。

この人材ロスターは、社会の要請と会員の登録情報を結びつけるシステムである。これによって必要とされる人材や機会の情報交換が可能となり、ロスターに登録したメンバーには、派遣講師、ボランティア等、メンバーの知識・経験を生かした社会貢献の機会を紹介することができる。

現在、外務省の国際機関人事センター（人事センター）には、多くの学校や団体などから国連や国際的な話をする講師派遣の要請が来ており、対応に追われている。AFICS-J が人材ロスターを立ち上げたことで人事センターの要請にも応えることができ、積極的な協力体制を整えることができたといえる。具体的には、ロスター登録者が人事センターとの協力を希望すれば、AFICS-J 事務局は登録情報を人事センターに転送し、人事センターは、学校などからの講師派遣要請を受けて、登録者の中から条件などを勘案し、適切な方を派遣講師として先方に紹介することになる。

国際機関人事センター経由以外の講師派遣要請や社会貢献の機会に関しては、AFICS-Jの事務局がロスターに登録されたメンバーに対して依頼者の要請情報をメールで連絡し、登録者が直接対応することになる。

なお、人材ロスターの登録を希望するメンバーは、Web: www.afics-japan.org から所定の「登録フォーム」を入手し、必要情報を記入の上、AFICS-Japan 事務局 afics.japan@gmail.com までメール添付でお送りください。また、質問なども事務局のメールアドレスへご連絡ください。

「人材ロスター」の運用開始 早大、北大、慶大などで講話

AFICS-J 人材ロスターは、すでにお知らせしたように、2015 年 10 月より運用を開始しました。2016 年 1 月現在の登録状況は計 13 名で、すべての方が外務省国際機関人事センターとの協力を希望しています。

また、2015 年 11 月と 12 月にかけて国際機関人事センターを含む講師派遣依頼が合わせて 3 件あり、すでに対応しました。

早大・国際機関キャリアガイダンス：11 月 25 日、国際機関人事センター/早稲田大学キャリアセンターによる「国際機関キャリアガイダンス」には、AFICS-J の登丸求己執行委員が依頼を受けて参加した。プレゼンの前半は、外務省の萩原敦年担当官が、外務省国際機関人事センターの役割、国際公務員という仕事とグローバル人材の要件、国際公務員の制度と処遇、応募と攻略法などについて、データに基づいた詳細な解説を行った。後半は、登丸委員が、国連を目指した動機と採用のプロセス、UNDP イエメン、ソマリア、ニューヨークでの貧困撲滅の取組、PKO タジキスタンと東ティモールミッションでの平和維持活動など、主にフィールド・ベースの経験を通じた体験談を話した。このガイダンスにはおよそ 40 人の参加者があり、4:30 から質疑応答を含めて 2 時間ほどで終了した。

北大・キャリアガイダンス～国際機関で働くには～：11 月 30 日、同じく国際機関人事センターによる北海道大学での「キャリアガイダンス～国際機関で働くには～」、続いて翌 12 月 1 日札幌国際ホールでの「どなたでも参加できる！キャリアガイダンス 国際機関で働くには」のために、AFICS-J の横山和子執行委員が依頼を受けて参加した。（横山委員の報告は後掲）

慶大・グローバルフェスタ「国連職員になるには」：12月5日、慶応大学グローバルフェスタで国際関係会（I.I.R.）FUN プロジェクトが主催した「国連職員になるには」のために、卒業生でもある伊勢会長からの依頼で横山委員と登丸委員が参加した。午後2時過ぎから質疑応答を含め2時間ほどの講演会には、およそ30人の学生が集り、横山委員が国連の制度と採用について、登丸委員が現場体験にもとづいた国連職員の仕事について、ともにパワーポイントによるプレゼンテーションを行った。2人のプレゼン後には参加者から活発な質疑応答が続いた。

（以下は横山和子委員の札幌ガイダンス体験記、原文のまま）



「外務省国際機関人事センター主催ガイダンスに講師として参加して」

外務省国際機関人事センターが11月30日、12月1日に札幌で実施した国際公務員志望者向けのガイダンスに講師として参加しました。私がAFICS-Jの人材ロスターに登録した際、活動可能地域として出身地の「北海道」と生活圏である「関東」と記載し、外務省国際機関人事センターへの登録を「希望する」とした所、人事センターから札幌でのガイダンスに講師を務めることが可能かとのメールが届きました。札幌でのガイダンス会場が母校の北海道大学であったこと、ささやかではあるけれど地域貢献ができると考え、講師を引き受けいたしました。

11月30日は午後5時から午後6時30分まで北海道大学内の大教室で国際公務員志望者向けガイダンスが行われました。最初に外務省国際機関人事センターの課長補佐が一般的な国際公務員の採用に関わる説明を行った後に、私が国際機関での体験談や国際機関で体験したエピソードなどを話しました。私が北大OGであるということ、小樽市出身ということからか参加した学生達は親近感を持ってくれたようでした。当日は雨と雪が混じる悪天候であった為か、出席学生は20名程度と思っていたより少ないものでした。大学側の担当者は、例年は80名近く参加するのですが、と釈明していました。時期が悪かったのかもしれません。

11月30日は午後5時から午後6時30分まで北海道大学内の大教室で国際公務員志望者向けガイダンスが行われました。最初に外務省国際機関人事センターの課長補佐が一般的な国際公務員の採用に関わる説明を行った後に、私が国際機関での体験談や国際機関で体験したエピソードなどを話しました。私が北大OGであるということ、小樽市出身ということからか参加した学生達は親近感を持ってくれたようでした。当日は雨と雪が混じる悪天候であった為か、出席学生は20名程度と思っていたより少ないものでした。大学側の担当者は、例年は80名近く参加するのですが、と釈明していました。時期が悪かったのかもしれません。

翌12月1日には同様のガイダンスが19時から札幌駅の前にある札幌国際ビル内の国際ホールにて行われました。この日はインターネットを通じ予約をした約40名の社会人、学部生、大学院生が参加しました。質疑応答の時間には多くの質問があり、予定時間を30分延長し質問に答えました。

地方では国際機関や国際公務員についての情報を得る機会が限られています。ふるさとで開催されたガイダンスの講師を務めたことは意義があったと思っています。

お知らせ

● 第5回年次総会のご案内：

2016年3月25日（金）国際文化会館で開催予定

総会 17:30、講演「現場からの報告」18:30、懇親会（会費 8 千円）19:30

最寄駅 地下鉄麻布十番駅（千代田線、都営大江戸線）から徒歩 5 分

今から予定表に記入しておかれるようお願いします。

● 新役員（執行委員 6-10 名、監査役 1 名）の立候補受付中：

現行役員の任期満了にともない、3月25日の年次総会で改選選挙を行います。AFICS-Jの運営体制を一新し、活動促進と新たな課題の取組を期待して、多くの会員の皆様からの自薦・他薦による立候補をお待ちします。AFICS-J事務局/選挙管理委員会にご連絡ください。

● 旧 Citibank で国連年金を受け取っている方へ：

発行：国連システム元国際公務員日本
協会（AFICS-Japan）執行委員会
Email: afics.japan@gmail.com
Web: www.afics-japan.org

《国連人》

今から十年前、日本の最も重要な人たちが一堂に会する式典の片隅に、私はいた。天皇皇后両陛下ご臨席のもと、総理大臣をはじめ主要閣僚と議員、地方自治体の首長、在日国連機関や外交団などを招いて、外務省と日本国連協会が共催した「日本の国連加盟 50 周年記念式典」である。だから何だという話ではあるが、この日本の超VIPの中にいる自分が不思議な思いだった。それより、これだけのVIPが一堂に会しても、当時はテロなど国の危機管理上の問題が取りざたされることはなかったと記憶している。ちなみに今年は 60 周年である。（編集子）

Citibank, Japan は、昨年 11 月に銀行名が SMBC 信託銀行になりました。これにともなって、国連年金局へ振込先変更の通知が必要になります。

UNJSPF の支払変更フォーム（PF.23 Change in payment instructions）の入手は：

<http://www.unjspf.org/UNJSPF/Web/page.jsp?role=bene&page=Forms>

SMBC 信託銀行の必要情報は：

https://www.smbctb.co.jp/news/2015/news_121115_02.html

● 会費納入のお願い：

2016 年の会費 5 千円の納入をお願いします。

三菱東京 UFJ 銀行麹町支店（店番 616）普通預金
口座番号 0118643

口座名義：アフィクス ジャパン ヤマト カノウ
（AFICS-Japan 会計 山本和）

☆前年度会費未納の方は、その分も合わせてお振込みください。

なお、年会費は 3 月 25 日の年次総会受付でも納入できます。